

未来へつなぐ 六十年

おどれ高円寺

東京高円寺阿波おどり 60 周年記念誌



「おどれ高円寺」未来へつなぐ 六十年

2017年11月発行

発行 NPO 法人 東京高円寺阿波おどり振興協会
東京都杉並区高円寺南 3-57-10 パルプラザ 4 階
<http://koenji-awaodori.com/>

協力 高円寺阿波おどり連協会

制作／印刷 株式会社イング
東京都新宿区早稲田鶴巻町 528-1F



高円寺阿波おどり60周年によせて

NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会 理事長 久保田 潤一.....6

高円寺阿波おどりの60年.....7

高円寺阿波おどり60周年によせて

杉並区長 田中 良

高円寺阿波おどり連協会 会長 平野 治彦.....14

東京高円寺阿波おどり 60周年記念イベント.....17

第60回 高円寺阿波おどり フォトコンテスト.....19

高円寺阿波おどり60周年によせて 名友会.....20

高円寺阿波おどり60周年によせて

徳島市長 遠藤 彰良

一般社団法人 徳島新聞社 理事社長 米田 豊彦.....23

みんなの阿波おどり

高円寺阿波おどりは、多くの人に支えられています.....25

高円寺阿波おどり60周年によせて

JR高円寺駅 駅長 押田 秀夫

杉並警察署 署長 太田 一豊.....30

東京高円寺阿波おどり 大会入賞連(第50回~第60回).....33

高円寺阿波おどり60周年によせて

徳島市阿波おどり振興協会 会長 朝日 榮作

徳島県阿波踊り協会 副会長 岡 秀昭.....35

高円寺阿波おどり連協会 31連紹介.....37

高円寺阿波おどり60周年によせて 連携商店街

高円寺パル商店街振興組合 理事長 河原 一ノ

新高円寺通商店街振興組合 理事長 西川 繁雄ノ

高円寺銀座商店会協同組合 理事長 久保田 潤一ノ

高円寺南商店会 会長 山田 滉ノ

イトアール通り商店会 会長 内藤 一夫ノ

高円寺駅西商店会 会長 香取 孝ノ

高円寺中通商栄会 会長 矢部 春雄ノ

馬橋商興会 会長 里見 秀和.....51

トランスボックスアート.....53

未来へつなぐ ~高円寺阿波おどりがなすべき事~.....55

編集後記.....57

おどれ高円寺

~未来へつなぐ 六十年~

高円寺阿波おどり60周年によせて

NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会

理事長 **久保田 潤一**

(高円寺銀座商店会協同組合 理事長)



昭和32年「高円寺ばか踊り」として産声をあげてから早や60年。現在のような高円寺阿波おどりの活況を一体誰が想像したでしょうか。

始まりは商店街の危機的な状況を打破すべく立ち上がった青年達。自分の店や商店街を守るため何かを仕掛けなければならないという強い気持ちが第1回の高円寺阿波おどりを産み出しました。

そして、その情熱が年を重ねるごとに周辺の商店街を巻き込み、数多の紆余曲折を経て今日に至ります。

60年に渡り、毎回毎回、運営者や踊り手達は次年の為にその年の問題点を抽出し、改善案を練り、翌年に生かす作業を繰り返してきました。周辺住民、商店街、行政、警察、消防から今日のような理解と全面的な協力を得られるようになったのも、これまでの先人達の努力の賜物と思います。

来る東京オリンピック、また70年、100年に向け、我々運営者も踊り手も更なる精進と地道な努力を重ね、阿波おどりにかかわる全ての人々への感謝の気持ちを忘れることなく進むことが今後の高円寺阿波おどり発展の道だと信じます。

阿波おどり60周年おめでとうございます。



高円寺阿波おどり60周年によせて

高円寺阿波おどりの60年

創成期

昭和30年代

昭和32年街おこしの為に「高円寺ばか踊り」を実施。本場徳島との交流を深め、5年の年を経て「高円寺阿波おどり」を立ち上げる。



発展期

昭和40年～50年代

高円寺阿波おどりの演舞場を拡大していくことで益々盛大な祭りへと発展。独立連が次々と誕生し、現在の高円寺阿波おどり連協会の多くの連が出揃うことになる。



充実期

昭和60年代～平成現在に至る

交流事業も始まり、高円寺合同連として全国各地、世界各国へと阿波踊りを披露していく。



国内の軌跡



1957 昭和32年 8/13 高南商盛会(現高円寺パル商店街振興組合)に青年部が誕生。その記念に「高円寺ばか踊り」を実施。



1958 昭和33年 リヤカーにテープレコーダーを積み込んだお囃子が登場。



1962 昭和37年 「東京の阿波おどり」というNHK四国向け放送に出演、NHK霞ヶ関スタジオで木場連と共演。

1971 昭和46年 高円寺阿波おどり前夜祭がはじまる。

1972 昭和47年 国鉄(現JR東日本)高円寺駅主催の「本場阿波おどり観光団」に参加。

1975 昭和50年 地元高円寺の有力15連が「連長会」(現高円寺阿波おどり連協会)を発足。

1977 昭和52年 高円寺阿波踊振興協会(現NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会)設立

1979 昭和54年 ワールドカップ世界体操選手権のアトラクションに出場。

1989 平成元年 10月、横浜港市制百周年記念祭に高円寺より300名が参加。

1991 平成3年 第三回世界陸上選手権大会の閉会式に登場、カール・ルイスなど選手も共に踊る。杉並区が北海道風連町、群馬県吾妻町と友好関係を結び、交流の一環として「風連町白樺まつり」、「吾妻町岩櫃まつり」の出演が始まる。



1993 平成5年 年末恒例の「NHK紅白歌合戦」に50名が参加。

1995 平成7年 阪神淡路大震災が発生。2月に被災者救援のために高円寺駅前にて高円寺阿波おどり連協会所属連がチャリティ阿波おどりを実施。3月、東京商工会議所創立12周年記念祭に参加。10月、世界柔道選手権大会閉会式に参加。



1997 平成9年 読売文化センター(船橋ららぽーと)のカルチャー講座の指導にあたる。

2001 平成13年 モーニング娘 ハローシャッフル 「うたばん」に出演

2004 平成16年 中越大地震が発生。被災者救援のために高円寺駅前にて高円寺阿波おどり連協会所属連が、チャリティ阿波おどりを実施。

2006 平成18年 「高円寺阿波おどり50周年の夕べ」をセシオン杉並にて開催。

90年代に入り、テレビ番組、イベントなど合同出演の依頼が増えてくる。

海外の軌跡



1976 昭和51年 アメリカ建国200年祭の催し物としてサンフランシスコ、ロサンゼルス、ホノルルの3都市から招待を受け、海外公演を成功させる。

1978 昭和53年 11月、フランス・パリにてパラディラタン出演。パリ出演後、ドイツ・ハンブルグ市と交流を行なう。(民族パレード出演)



1982 昭和57年 9月、東京都の国際文化交流事業による民間親善大使節団として、ハワイ最大の祭り「アロハ・ウィーク」に100名参加。

1984 昭和59年 南フランス・ニースのジャパンフェスティバルに80名参加。



1986 昭和61年 イタリア・フィレンツェのジャパンウィークに参加。

1987 昭和62年 オランダ・ユトレヒトのジャパンウィークに85名参加。ジャパンウィークでは欧州各国を回ったが最大規模のジャパンウィークであった。

1988 昭和63年 オーストラリア・シドニーのオペラハウスで開かれた、建国200年祭に86名が参加。

1991 平成3年 サンフランシスコのチェリーブロッサム・フェスティバルに68人参加。

1992 平成4年 中国・北京の日中交流正常化20周年行事に参加。



1994 平成6年 杉並区とオーストラリア・ウィロビー市友好都市提携4周年を記念して高円寺から88名が参加。



1998 平成10年 香港にてJUSCOオープニングセレモニーに高円寺連協会合同連として参加。

2004 平成16年 ギリシャ・アテネ公演 ヘロドスアティコス劇場にて。

2006 平成18年 オーストラリア・ウィロビー市の「スプリングフェスティバル」に出演。



徳島と高円寺



1961 昭和36年 東京深川・木場の徳島県人で組織する「東京踊りの会」の指導を受ける。

1965 昭和40年 阿波おどり留学と称して、本場徳島へ高南商盛会(現高円寺パル商店街振興組合)の幹部有志12人が訪問。

1972 昭和47年 徳島県知事、徳島市長優勝旗が贈られる。

1978 昭和53年 商工会議所100年記念、全国郷土祭に出演。天皇陛下御臨席のもと、徳島と高円寺の合同出演。
※徳島と高円寺の交流が盛んになるきっかけとなった。



1979 昭和54年 「オール高円寺連」約100名が初めて徳島の阿波おどりに参加。

1980 昭和55年 消防100年全国大会が後楽園球場で天皇陛下御臨席のもと行われ、徳島と高円寺の合同出演。

1981 昭和56年 高円寺阿波おどり25周年記念行事として、高円寺阿波おどり連協会主催で本場徳島へバス2台80名が参加。

1986 昭和61年 本場徳島より徳島阿波踊り協会の連長会の14連37名が高円寺阿波おどり30周年を祝して友情出演。
※61年以徳島と姉妹を結ぶ連が一層増えてきた。

平成以降 1990年代より「高円寺連協会合同連」として、毎年徳島阿波おどりに参加。

2011 平成23年 第55回東京高円寺阿波おどりの開会式に徳島市長が列席。この年より徳島市長賞が贈呈される。
※徳島と高円寺の絆は多くの方の努力の積み重ねで年々強くなってきている。



飛躍期

2007 (第51回目)

「太陽の船」出演 東京ドーム
映画「眉山」プレスイベント 徳島合同連と出演



(第52回目) **2008**

MLB出演 東京ドーム
高円寺連協会合同連
椎名林檎コンサート
さいたまスーパーアリーナ
女踊り90名参加



2009 (第53回目)

ふるさと祭り初出演 東京ドーム
高円寺阿波おどり連協会所属連
250名
「杉並芸術会館 座・高円寺」完成



2010 (第54回目)

銀座阿波おどり
連協会所属連日替わりで出演
第1回 座・高円寺阿波おどり開催
日韓交流おまつり
in Seoul 2010



(第55回目) **2011**

東日本大震災復興阿波おどり
15時～18時開催



2012 (第56回目)

被災地応援イベント
「Take The Town」出演



(第57回目) **2013**

振興事業部発足
新宿阿波おどり開始
香港「2013キャセイパシフィック
旧正月インターナショナル・
ナイト・パレード」



2015 (第59回目)

日本ハムシャウエッセンCM出演
キリンメッツCM出演
東京高円寺阿波おどり台湾公演2015



2016 (第60回目)

熊本義援金
「語る 高円寺阿波おどり」
開催
高円寺阿波おどり連協会
発足40周年記念
サイパン公演





高円寺阿波おどり60周年によせて

60周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。
 昭和32年に「高円寺ばか踊り」で始まった高円寺のお祭りが、
 山あり谷ありの様々な歴史を経て、今や、1万人の踊り手が舞い
 踊り、100万人の観客が熱狂する、東京を代表する夏の風物詩に
 まで成長したこと、大変、誇らしく思います。この成長を陰から支
 えてこられた地元商店会や町会・自治会の皆様をはじめ、関係
 する多くの方々に厚く御礼申し上げます。
 商店街事業として始まった東京高円寺阿波おどりは、本場徳島との
 交流はもとより、今では国内ばかりでなく世界の国々の皆さん
 との交流も盛んになるなど、大きく成長いたしました。
 東京高円寺阿波おどりが、世界に誇る伝統芸能として益々発展
 していくことを祈念し、お祝いの御挨拶とさせていただきます。

杉並区長

田中 良



高円寺阿波おどり連協会

会長 **平野 治彦**

高円寺阿波おどり60周年を、心よりお祝い申し上げます。
 昭和32年、地域活性化・町おこしの一環として暗中模索の中
 スタートした「高円寺ばか踊り」。
 その後、本場徳島の存在を知り、“本場に学べ”を合言葉に「高円
 寺阿波踊り」と名を改めて活動が本格化。商店主やその家族、また
 従業員らで結成された“連”は下より、発展を続ける中で独立連が
 続々と誕生しました。
 昭和50年、各連との親睦を深めるべく誕生したのが、現高円寺
 阿波おどり連協会の前身の高円寺阿波踊り連長会でした。
 高円寺阿波おどり連協会は、高円寺阿波おどりの発展と共に成長
 を続け、お陰様をもちまして、一昨年に発足40周年を迎え、所属
 連31連を数える、高円寺阿波おどりの中核を成す組織に発展
 致しました。これもひとえに「高円寺ばか踊り」を誕生させ、そして
 育てた数多くの先人達、長きにわたり携わって頂いている各商店
 街、各地域の自治会、さらには杉並区、そして本場徳島の皆様
 のお陰でございます。高円寺阿波おどり連協会は、この先の
 70年、いや100年を目指しまして、高円寺阿波おどりの
 さらなる発展に尽力していく所存でございます。
 改めまして、祝高円寺阿波おどりの60周年、高円寺に感謝!!



高円寺阿波おどり60周年によせて



東京高円寺阿波おどり

60周年記念イベント

『東京高円寺阿波おどり60周年記念祝賀会』開催

2017年7月6日、新宿京王プラザホテルエミ
ネンスホールにて、60周年記念イベントと
して、記念祝賀会を開催いたしました。



高円寺ばか踊りとして産声を上げた東京高円寺
阿波おどりが60周年という歴史を紡いで来ら
れたのも、地域の皆様、行政・警察・消防・交通
機関の皆様や、その他ご支援頂ける多くの方々
のおかげです。

これからも安心・安全を第一に皆様に愛される
イベントを目指して精進して参ります。



『語る 高円寺阿波おどり』開催

2016年6月23日(木) 座・高円寺2において、高円寺阿波おどりの歴史を語り伝えていこうという
会を開催いたしました。

会場には地元の商店街・町会関係、共催の杉並区、後援の東京都のほか各地の阿波踊り大会主催者の
皆さん、阿波おどり連参加者にお越し頂きました。

第一部は高円寺阿波おどり振興協会の代表がパネラーとして登壇し、高円寺阿波おどりの始まりから、
広がり、組織の変遷についてを語り、第二部は高円寺阿波おどり連協会の代表者が連協会の成り
立ち、海外公演、本場徳島との関係、チャリティ公演について語りあいました。



そして最後は連協会合同連による舞台踊り
も披露され、華やかに幕を閉じました。

当日の様子はJ:COMチャンネル(地デジ
11ch)でも後日ご覧頂くことができたため、
多くの方に高円寺の阿波おどりの歴史
をお届けできたのではないかと思います。



◆高円寺阿波おどり連協会結成40周年記念イベント

『サイパン公演』開催

2016年7月、高円寺阿波おどり連協会は結成40年という節目の年に、サイ
パン公演を実施致しました。

現地では東京天水連が2007年にサイパン支部を立ち上げており、阿波
おどりの素晴らしさをサイパンの地で発信し続けています。

今回のサイパン公演では高円寺連協会合同連とのコラボレーションも実現。ひたむきにそして目を
輝かせて踊るサイパンの子供たちの姿に参加者一同大きな刺激を頂きました。

7月4日には独立記念パレードにも参加し、多くの方に阿波おどりの魅力を伝えてきました。そして、
今までの実績を評価され、高円寺阿波おどり連協会がマリアナ諸島観光大使に任命されました。



第60回 高円寺阿波おどり

フォトコンテスト

杉並区長賞



記念すべき第60回東京高円寺阿波おどりの
フォトコンテスト受賞作品をいくつかご紹介
します！

テーマは「夏の喝采、彩る笑顔」でした！

「清艶」 三田和広さん

笑顔の女性を主体にして、第60回大会の特長である
雨を、路面の映り込みで上手に表現しています。

東京高円寺阿波おどり振興協会 理事長賞



「阿波の舞」 庄子裕史さん

踊り手の満面の笑顔と、観ている方達の喝采を捉え
ています。踊りの躍動感も見事にえています。

優秀賞



「よっ！待ってました！」 八咫鳥さん



「熱波」 小島修司さん

名友会

高円寺阿波おどり60周年によせて

2013年、高円寺阿波おどり連協会の歴代会長、また所属各連の会長(参加は任意)により、
高円寺阿波おどり連協会、さらには高円寺阿波おどりの発展に寄与すべく、連協会の外郭
団体として誕生しました。

代表幹事

杉谷宗彦 (江戸っ子連 会長)



JR高円寺駅北口に位置する高円寺銀座商店会(現・高円寺純情商店会)が、高円寺
阿波おどりに参加したのは昭和42年(1967年)。長年の懸案であったJR中央線が
“高架”となり、南北の商店街がいわば陸つづきになった時で、昭和32年のスタート
から10年遅れであった。とはいえ早や50年経過しており、私も50年阿波おどりに
係わっていることになる。

昭和56年(1981年)、現場で動く「連」の組織として、高円寺阿波おどり連協会が
設立された。そして平成25年連長経験者の親睦会として名友会が発足した。

「老兵は死なず ただ 消え去るのみ」はマッカーサー元帥の名言であるが、名友会
は「老兵は死なず まだまだ がんばる」わけである。

浅賀信夫 (菊水連 会長)

あっという間の60年。白のランニングシャツに半ズボン、帯の代わりに荒縄で
踊っていた当時は懐かしく思い出されます。その頃は踊り子もまだ少なく、
応援してくださるお客様一人ひとりに喜んでもらうために必死でした。

自ら握手を求めたり、わざと飴や飲み物をもらったりと、今では考えられな
いこともやってきました。振り返ってみれば、私のとぼけ踊りの原点は、その
恥ずかしさを乗り越えようとしたことにあるのかもしれない。

高円寺で生まれ半世紀以上、阿波おどりに関わらせていただき「感謝」の
ひとことです。これからも100周年、200周年と素晴らしい文化として継承
して行って下さい。60周年おめでとうございます。



渡辺次郎 (和楽連 会長)



連長を経て会長となった一部のメンバーにより構成する『名友会』。
特に目立った活動をしている会ではありませんが、本番には栈敷での
運行、座・高円寺阿波おどりの司会や『おじゃま連』等々のサポート
など、今までの経験を活かし高円寺阿波おどりを陰から支える側と
なって本番に携わっています。これからも、ますます進化していく
であろう高円寺阿波おどりを安全で安心に愉しめる場であるよう
一同、尽力に努めたいと思っております。



東京高円寺阿波おどり大会が60周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、400年の歴史をもつ徳島市の「阿波おどり」は、今では徳島のみならず、全国各地に踊りの輪を広げ、日本を代表する世界に誇る「祭り」に成長しております。東京高円寺阿波おどりにおかれましては、ご関係の皆様のご長年にわたる熱意と努力により、現在では、1万人の踊り子と、100万人の観客が躍動する、東京都の夏の風物詩に発展されておりますことに、深く敬意を表する次第でございます。

今後も「阿波おどり」のさらなる発展に向け、引き続き力強いご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京高円寺阿波おどりが、ますます飛躍・発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

徳島市長

遠藤 彰良



一般社団法人 徳島新聞社

理事社長 米田 豊彦



東京高円寺阿波おどりが60周年を迎えたことを、心よりお慶び申し上げます。

近年、地域活性化のイベントに阿波踊りを取り入れる動きが広がっています。中でも、2日間で100万人の人出がある高円寺の存在感は大きく、徳島の宝である阿波踊りを国内外に発信する拠点として重要な役割を果たしてくれています。

驚くのは、若者らが年間を通して踊りの技術を磨き、8月の本番で大輪の花を咲かせている姿です。阿波踊りを愛し、心ゆくまで乱舞を楽しむ光景には、感動すら覚えます。今後とも、徳島とのつながりを密に、次世代への踊り文化の継承をお願いいたします。

結びに、NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会をはじめ、関係者の皆様のご健勝・ご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。

みんなの阿波おどり

高円寺阿波おどりは、多くの人に支えられています！

60周年を迎えた高円寺阿波おどりは、行政各位の皆様、地域の商店会や町会の皆様、そして地域の多くの皆様の応援があってこそ開催ができます。特に第51回(2007年)からはボランティアチームが毎年結成され、学生さんを中心にしたメンバーに地元の杉並第八小学校の児童達も参加し、高円寺阿波おどりの心強い力となっております。

ボランティア草創期

終戦後の成長と繁栄の20世紀から21世紀に入り、高円寺の街の在り様も変化が始まりました。商店街では今までのお店が商売を閉じて貸店舗が増え、町会・自治会では高齢化が進み、それまで高円寺の阿波おどりを担っていた方々のマンパワーの不足が深刻化してきました。

そのような状況を改善するために、第46回(2002年)にボランティアの導入が発案され、さっそく募集を始めましたが応募者もなく、まずは「**人集めの壁**」にぶつかりました。



第48回(2004年)には杉並区内の専修学校を中心に募集を行い、東放学園・織田福祉専門学校・創価学会青年部・立正佼成会交通部からボランティア60名程が集まりましたが、今度はボランティアの運営が不慣れで「**仕事の壁**」にぶつかってしまいました。翌年の第49回(2005年)には諸行事へ参加しているボランティアチームに指導を仰ぎ、前年から始めた各演舞場のサポートや、終了後のゴミの収集・分別作業を行いました。さらに第50回(2006年)には徳島県出身の大学生を中心にリーダーチームを結成して、ボランティアスタッフからボランティアチームとして機能を始めました。

ボランティアチーム

手探りから始めたボランティアも5年が経ち、6年目の第51回(2007年)にはリーダーチームが増員し、チームの名称を「**CO-ENGINE**」とし、「**高円寺の街を阿波おどりが始める前よりも終了時がきれいになるようにする。**」と活動目標を掲げ、活動マニュアルも作成してボランティアチームとしての活動が本格化していきました。

第54回(2010年)からの演舞場でのゴザ敷き、第55回からの演舞場以外の周辺道路でのゴミ回収、第56回からのインフォメーションテントでの観客誘導、第60回からは演舞場での英語のアナウンスや、捨て看板の取付・取外しと、活動の範囲を年々広げていきました。

また、第57回(2013年)からは、杉並第八小学校の児童の皆さんによる演舞場内でのゴミの回収も始まり、地域に根付いた開催がボランティアを通して広がりを見せました。

第58回(2014年)からは、多くのチームからなる**ボランティア組織全体の愛称を「チームハピネス」として、より一層の連帯感のある組織になりました。**さらに第61回(2017年)からは、高円寺中学校の3年生もスタッフとして活動に参加し連携が始まりました。



歴代ボランティアリーダー	
第51回(2007年)	阿部知彦(早稲田大学)
第52回(2008年)	井関春斗(中央大学)
第53回(2009年)	志村綾子(上智大学)
第54回(2010年)	澁谷太志(東京理科大学)
第55回(2011年)	平田展敬(東京理科大学)
第56回(2012年)	両角 準(上智大学)
第57回(2013年)	舛田貴司(東京理科大学)
第58回(2014年)	小宮山菜緒(上智大学)
第59回(2015年)	小熊隼人(東京理科大学)
第60回(2016年)	多田隆泰(中央大学)
第61回(2017年)	藤原 萌(武蔵大学)

チームハピネスの現況

- ①環境対策として演舞場及び周辺道路のゴミ回収及び分別・集積
- ②プラ柵、各演舞場のエアアーチの設置・撤収
- ③中央演舞場、桃園演舞場のゴザ敷き
- ④捨て看板の取付・取外し
- ⑤インフォメーションテント(3か所)を拠点にしての情報発信
- ⑥SNS等を使い、高円寺の街の情報、阿波おどり連の情報を発信
- ⑦演舞場での英語のアナウンス
- ⑧学校連携として、杉並第八小学校及び高円寺中学校との連携事業の推進

『チームハピネス』はチームリーダー32名を核として、組織単位で参加または連携しているNPO法人WIN WIN、サンワコム シスエンジニアリング、ミリオンインターナショナル、日本医歯薬専門学校、創価学会青年部と、ホームページから応募してくる一般ボランティアを含め、一日約200人で構成されています。

『チームハピネス』は東京高円寺阿波おどりを舞台にして、この行事を支えるための事業を自ら立案し実行するために以下の活動を行っています。



僕らも参加してます!! — 杉並第八小学校 —

杉並第八小学校の児童による演舞場でのゴミの回収は第57回(2013年)から始まりましたが、その他にも環境美化及び高円寺阿波おどりのPR活動としてのポスターの制作や、終了翌日の月曜日のゴミの臨時収集作業を行政へ依頼したり、便乗ゴミ禁止のチラシを制作し配布するなど、小学生の皆さんも積極的に高円寺阿波おどりを通じてボランティア活動を行っています。

杉並区立杉並第八小学校 校長 黒川雅仁

本校では、「杉八連～全校阿波おどり～」を運動会プログラムの午後の部一番に位置づけ、子供たちとともに保護者や地域への愛着を感じるとともに地域の一員としての自覚を深めています。この取り組みは、事前指導や当日の演奏など、連の方々の大きな協力を得て成り立っています。

また、毎年6年生が「高円寺阿波おどり」を題材に学習をしています。翌日の便乗ゴミをなんとかしようと区長へ回収を請願し、祭り翌日に特別回収する案を快諾していただきました。地域には、手作りのごみ削減啓発チラシを配布、町にはポスターを貼らせていただいています。祭当日には「杉八連」を結成し、踊り



行く連と連との間に入れていただきごみの分別回収。観客からは「がんばってね」「杉八小サイコー」と多くの声を掛けてもらっています。



これらの活動は新聞やテレビ・ラジオ等のマスコミに取り上げられるとともに、昨年度は食品容器環境美化協会より環境美化教育最優秀文部科学大臣賞をいただくことができました。

来年度においても、阿波おどり振興協会をはじめ多くの方々のお力添えをいただきながら、子供たちが地域の一員として「ふるさと高円寺」に愛着を深めるべく「高円寺阿波おどり」の学習を展開していきたいと考えています。



杉並第八小学校の児童の皆さんによる阿波おどり開催時の環境美化のボランティア活動は、(公財)食品容器環境美化協会主催の環境美化教育活動最優秀校として、『文部科学大臣賞』を受賞しました。(平成29年1月27日)

高円寺阿波おどりを支えていただいている皆様

高円寺阿波おどり開催にあたり、行政各位の皆様や『チームハピネス』の皆様以外にも多くの方々に裏方としてご協力いただいています。

- ◆商店会・自治会を中心とする実行委員(約150名)・・・主に演舞場の運営管理
- ◆杉並交通安全協会・・・交通誘導(主に北口広場一帯のバスの誘導など)
- ◆杉並消防団・・・警戒(演舞場の警戒)
- ◆東京建物管理事業協同組合・・・仮設トイレ等のメンテナンス



JR高円寺駅

駅長 **押田 秀夫**



この度は、東京高円寺阿波おどりの60周年記念誌を刊行されますこと、誠におめでとうございます。

昭和32年に数10名の方たちで始められた阿波踊りが、現在では全国に名を轟かせるほど有名な東京の夏の風物詩と言われるまでに成長されたのは、ひとえに振興協会の皆さまをはじめとする高円寺周辺一帯の皆さまが力を合わせ、正に一丸となって取り組んだ結果であると存じております。

のべ100万人の方々が集まる一大イベントをご覧に来られるお客様を、当JR東日本高円寺駅では、安全を最優先に考え、お客様をおもてなししてまいります。

東京高円寺阿波おどりが、今後益々発展され末長く地元の方々をはじめ多くの皆さまに愛され続けることを願っております。

杉並警察署

署長 **太田 一豊**



「東京高円寺阿波おどり」が60周年を迎えられ、関係者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

交通・警備両面で大会開催に協力させていただいている当署といたしましても、この上ない喜びでございます。

昭和32年に30余名の方々が始められた「阿波おどり」が、東京の風物詩と言われるまでに成長され、さらに、この長い歴史で、大きな事故が発生していないのは、関係者の皆様方の変なご尽力に加え、「安心・安全」な大会運営へのご配慮があったからこそと敬服しております。

杉並警察署といたしましては、今後も引き続き「安全、安心な大会」の実現のため、様々な対策を講じ、万全を期していきたいと考えておりますので、皆様方の変なご協力をお願い申し上げます。

結びに、関係者の皆様のご健勝とご多幸、そして「東京高円寺阿波おどり」の更なるご発展を、祈念申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

高円寺阿波おどり60周年によせて

高円寺阿波おどり60周年によせて





大会入賞連

東京高円寺阿波おどり
(第50回～第60回)

	第50回 (平成18年)	第51回 (平成19年)	第52回 (平成20年)	第53回 (平成21年)	第54回 (平成22年)
東京都知事賞	練馬きたまちぼんぼこ連	目黒銀座連	国分寺連	新粋連	杉並区役所さざんか連
東京都議会議長賞	新粋連	みたか銀座連	経堂むらさき連	久米川連	江戸粋連
杉並区長賞	山形んだず連	新宿区役所つつじ連	小金井さくら連	美遊ひよこ連	関東学生合同連
杉並区議会議長賞	伍楽連	板橋区役所けやき連	たつのおとし子連	びっくり連	むさし葵連

	第55回 (平成23年)	第56回 (平成24年)	第57回 (平成25年)
東京都知事賞	東京新のんき連	浅草雷連	心舞連
東京都議会議長賞	三鷹商工連	伍楽連	目黒銀座連
杉並区長賞	東京葵連	東京新のんき連	久米川連
杉並区議会議長賞	紅連	中村橋新連	式穂連
徳島市長特別賞	天狗連	天翔連	いろは連

	第58回 (平成26年)	第59回 (平成27年)	第60回 (平成28年)
東京都知事賞	新宿区役所つつじ連	湘南なぎさ連	飛鳥連
東京都議会議長賞	灯 連	杉並区役所さざんか連	茂原阿波おどり連友会
杉並区長賞	東京えびす連	みたか銀座連	つくし連
杉並区議会議長賞	希 望 連	みまつ連	コムシスグループ連
徳島市長特別賞	ひよっとこ連	江戸っ子連	葵新連
東京高円寺阿波おどり 振興協会理事長特別賞	天 水 連	平和連	該当なし



東京高円寺阿波おどりが、昭和32年に始まって以来毎年盛況のうちに60周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。これまで開催にご尽力された全ての皆様に深く敬意を表します。

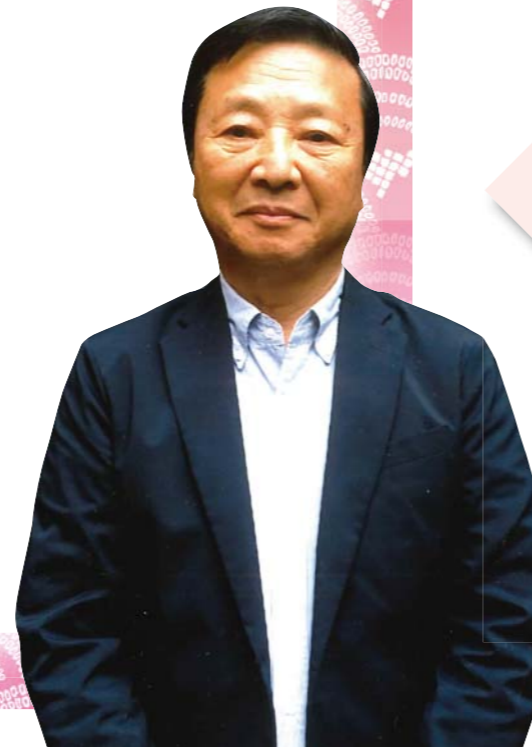
高円寺と徳島の踊り連の交流は年毎に親密さを増し、共に国内外で活動するまでになっております。

阿波踊りは、至る所で街の活性化のツールとして開催され、地域に根ざしたお祭りになっております。また、開催地間の交流も広がっております。

阿波踊りが繋ぐ全ての人々と心をひとつにして、阿波踊りを次世代へと引き継ぎ、基本を大切にしながら、時代に合わせ進化させていきたいと思っております。

東京高円寺阿波おどりのさらなるご発展と関係者皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

徳島市阿波おどり振興協会
会長 **朝日 榮作**



徳島県阿波踊り協会
副会長 **岡 秀昭**



東京高円寺阿波おどり60周年おめでとうございます。

徳島とは遠く離れた高円寺で街を活気づけようと始まった阿波おどりが、年々盛況を増し、今では東京を代表する行事へと成長なさいました。この間にはいろいろな苦勞があったことと拝察いたしますが、地元にお住まいになっている皆様が核となり作り上げた組織で事業を推進している姿は大変に立派なものです。また、近年では踊り手に留まらず、高円寺阿波おどりのスタッフとして徳島出身の大学生が多く参加するなど、市民レベルでの交流が拡大し、太い絆で結ばれています。

阿波おどりは亡き人を悼む盆踊りが始まりと言われております。今後とも踊りに向き合う「心」を大切にいただき、一層のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

高円寺阿波おどり連協会

31 連紹介

(五十音順)

- ① 連長名
- ② 結成年
- ③ 連員数
- ④ ウェブサイト
- ⑤ フェイスブックページ

あおいしん 葵新連

- ① 森田 将令
- ② 1967年
- ③ 80名
- ④ <http://aoi-shinren.official.jp>
- ⑤ <https://www.facebook.com/葵新連-1503388296603473/>



高円寺阿波踊りの長い歴史の中で最初に独立連として誕生したのが葵新連です。大名行列を思わせる毛槍を先頭に団扇さばきが光る赤いハッピーの子供踊り。時に激しく時にしなやかに踊る女踊り、笑顔溢れる粋のいい男女ハッピー踊り、軽快で独特なリズムを刻む鳴物衆。これらが織り成す舞台構成や路上パフォーマンスをどうぞお楽しみ下さい。

あすか 飛鳥連

- ① 大澤 和生
- ② 1970年
- ③ 130名
- ④ asukaren.com/
- ⑤ facebook.com/飛鳥連-105579769538010/



飛鳥連は昭和45年に結成。伝統、歴史、和を大切にすることを次代へ伝承し続け、現在は130名の多世代に渡る連員が所属しています。本場徳島阿波おどりの最高峰、娯茶平（ゴチャヘイ）の姉妹連として、情感豊かな鳴り物と、自由で美しい踊りを目指して活動しています。漁師が投網を打つ仕草を模した網打ちは、娯茶平直伝。阿波の情と江戸の粋とが織りなす表情を、心を込めて踊ります。

いろは連

- ① 飯星 信人
- ② 1972年
- ③ 80名
- ④ iroharen.com/
- ⑤ facebook.com/Iroharen.Koenji/



連名はイロハ順の最初の3文字。「一番を目指す」ところから由来。女踊りは時には激しく情熱的に、時にはゆったりと情感豊かに踊り、見る者の心を揺さぶります。男踊りは団扇片手に自由奔放・豪快に踊ります。横っ飛びは男踊りの見せ場の一つです。鳴り物はいろは伝統の音を大事にし踊り手と一体になって盛り上げます。「火事と喧嘩は江戸の華、火事場に踊る火消しの纏」纏をしょったいろは連は粋でいなせな火消しの心意気で頑張ります。

えどうき 江戸浮連

- ① 河原 一
- ② 1967年
- ③ 45名
- ④ <https://edouki.jimdo.com/>
- ⑤ <http://www.facebook.com/edouki1967>



江戸浮連は昭和42年（1967年）高円寺南商盛会（現高円寺パル商店街）の店主、従業員、家族子弟を連員として結成されました。その後一般からも募集し幅広い年齢の連員で構成されています。平成26年4月、徳島の有名連「蜂須賀連」さんの練習に初参加、同年5月友好連にさせて頂き、正調の鳴物、豪快な男おどり、華麗な女おどりを目指しています。そして本年結成50年目を迎えました。元気で楽しい阿波踊りのため日々練習に努めてまいります。連員募集中です！

えどかぶき 江戸歌舞伎連

- ① 中村 利雄
- ② 1995年
- ③ 68名
- ④ <http://www.kabuki.sakura.ne.jp/>
- ⑤ <https://m.facebook.com/edokabukiren/>



江戸歌舞伎連は1995年に結成、今年で22年目を迎えます。皆様楽しんでいただきたい私たちの見せ場は、女踊りは飛び跳ねる事のない品よい踊り、男踊りの渋さと凛々しさ、華やかな女性の男踊り、心浮き立つお囃子もぜひお楽しみください。そしてケレン味たっぷりの奴踊りも見せ所の一つです。江戸歌舞伎の名の通り、皆様に江戸の小粋さと楽しさをお届け出来ればと願い日々練習に励んでいます。江戸歌舞伎連をどうぞご最良に！

江戸っ子連

- 1 平野 治彦
- 2 1970年
- 3 100名
- 4 <http://edokko-ren.net/>
- 5 <http://www.facebook.com/edokko.ren/>

“阿波の阿呆に拘り続ける 江戸の阿呆達”

結成47年を迎えました江戸っ子連は、阿波おどりの聖地・徳島の阿波おどり振興協会「阿呆連」の唯一の弟子連として、師匠の教え“心をおどる阿波おどり”の伝承に努め続けております。来るべき2020年に結成50周年を迎えます江戸っ子連は、高円寺阿波おどりのさらなる発展のために精進を続けてまいります所存でございます。



小六

- 1 布沢 雄大
- 2 1974年
- 3 40人
- 5 <https://www.facebook.com/korokukouenji/>

点と点が繋がり線になり、線が繋がり面となる。更にその面が合わさり連を形作る。もちろん綺麗な形になるわけがないが、その歪んだ形こそが魅力となる。いびつな角を取って丸くするよりも、削って尖らせ祭を楽しむ武器にする。見ているだけじゃ勿体無い、一緒に騒ごう!と思わせる求心力を持ったクセの強い傾奇者たちが、アマチュア精神を忘れず今日も切磋琢磨。連綿と続く発展に完成形は無く常に全盛期。



菊水連

- 1 安住 一成
- 2 1964年
- 3 95名
- 4 www7a.biglobe.ne.jp/~kikusui_ren/
- 5 <https://ja-jp.facebook.com/kikusui1964koenji>

東京オリンピック開催の年に連を結成。3歳から80歳までの老若男女が集い、本場徳島とも交流を深めながら、菊水らしい阿波おどりを追及し練習に励んでいます。多彩な音色を奏でる鳴り物と指先まで鮮やかな踊り手とが一体となって、菊水連を作り上げています。

日本の伝統芸能である阿波おどりをやれることを誇りにもち、その魅力を広めるために国際交流も積極的に行っています。



しのお連

- 1 粕谷 俊春
- 2 1972年
- 3 75名
- 4 <http://www.shinoburen.com/>
- 5 <https://www.facebook.com/shinoburen/>

私達、しのお連は昭和47年に結成して今年で46年目を迎えます。連独自のダイナミックな迫力のあるお囃子と、正調踊りに扇を取り入れたオリジナルの扇踊りを中心に、静の踊り、動のお囃子の一体化を目指している連です。連員は杉並地区に留まらず広範囲から集まり、年齢も様々。最近では親子二代三代で踊りやお囃子を楽しむ家族も増え、裏方のお父さんお母さんを含め、連全体が大家族の様に丸となり、明るく楽しく頑張っています。自称、「いい男いい女のしのお連です」



胡蝶蓮

- 1 鈴木 益実
- 2 2010年
- 3 65名
- 4 <https://www.kotyoren.jp/>
- 5 fb.me/kotyoren

結成7年今年念願の連協会所属になり、心機一転練習に励んでいます。胡蝶蘭の花言葉にあやかり「幸せ舞い込む胡蝶蓮」として笑顔が咲く踊りや鳴り物を目指しています。女踊り・男踊り・女浴衣踊り・ちびっこ踊りと年齢層も厚く衣装も鮮やかな色を使っています。徳島の正調目指しこれからも踊って鳴らします。



写楽連

- 1 嶋田 清孝
- 2 1980年
- 3 80名
- 4 <http://sharakuren.net>
- 5 m.facebook.com/Sharakuren

謎の浮世絵師と呼ばれた「写楽」の絵に惹かれ、その奥の深さは阿波おどりの奥の深さに通じるものと感じた由縁で写楽連と名付けました。鳴り物は二拍子の連打が基本。踊り手は華やかな女踊り、優美な女浴衣踊り、勇猛な男踊り、息のあった法被踊り、将来有望な小写楽、そして斬新な奴踊り。徳島に学び正調阿波おどりを追及しつつ、軽快なリズム、元気な笑顔、心揺さぶる楽しい阿波おどりを目指します!



志留波阿連

- 1 小野口 さおり
- 2 1970年
- 3 120名
- 4 <http://sirubaa.jp/>
- 5 <https://www.facebook.com/sirubaa/>



1970年。高円寺駅の南側にあったシルバー商店街の有志が創立し、のちに「阿波の志を留める」という意を込めて、志留波阿連となりました。姉妹連(徳島みやび連)との交流や日々の活動を通して、伝統を守りつつも新しい阿波踊りを探求しています。華やかな女踊り、颯爽とした男踊り、可愛いらしい子ども踊り、軽快な鳴り物と、バランスの良さには定評があります。笠をかぶり下駄を履いた女性が飛び跳ねるように踊る「跳び踊り」は、一見の価値あります。

吹鼓連

- 1 福村 沙織
- 2 2001年
- 3 120名
- 4 <http://suicoren.com/>
- 5 <https://www.facebook.com/吹鼓連-256498964512911/>



吹鼓連の連名の由来は「鼓吹」という言葉でその意味をいつも心に留め置くため、「吹」と「鼓」の間には返り点をつけています。徳島とのつながりは深く、平成15年より徳島の阿波おどりグループ「藍吹雪」に師事し、平成20年には「天水連」と姉妹関係を結びました。女踊りは美しくあでやかに、男踊りはダイナミックに宙を舞い、命のほとばしりを表現します。鳴り物は阿波の正調を奏で、命の賛歌を歌います。そして、阿波の技と心を皆様にお届けします。

粹輦

- 1 駒形 親一
- 2 1996年
- 3 40名
- 4 <http://kouenji-suiren.blog.jp/>
- 5 <https://ja-jp.facebook.com/kouenji.suiren/>



私たち粹輦は「粋な踊り、粋なお囃子、粋な心の仲間たち」を合言葉に日々練習を重ねてまいりました。男踊りは勇ましく、女踊りはしなやかな踊りを目指しており、団扇や扇も使って踊りに華やかさを加えています。またお囃子は、鉦と太鼓の掛け合いにて一味違う一拍子の音を奏で、踊り手をより活気付けています。そんな粋な仲間たち、粹輦をどうぞご覧ください。

朱雀連

- 1 井上 麻紫子
- 2 2003年
- 3 65人
- 4 <http://www.suzakuren.com/>
- 5 <https://www.facebook.com/suzakuren/>



「縁があり円になり宴が始まり演になる」
伝統的な2拍子を基本に革新的な音を絡ませ、観る人も思わず心躍る鳴り物、可憐かつ情熱的な女踊り、弓張り提灯を持ち勇ましい男踊り、粋さと晴れやかさを表現する法被踊り。縁有って集まったメンバーが本気で楽しみ、踊り、奏でて作り上げる個性豊かな阿波おどり。魅せる阿波おどりを追求し、エネルギーあふれる演舞を目指しています。

騒連中

- 1 上原 正
- 2 1994年
- 3 40名
- 5 <https://www.facebook.com/zomekifreaks/?fref=ts>



一切の無駄を削ぎ落とし、本質的なものだけにこだわる。その優雅さは、極めて控え目で、さりげなく。ここにある品の良さ、洗練の凄さというのは、むしろ物足りなさすら感じる。本場、阿波徳島の名門に師事を仰ぎ、1995年、騒連中(ぞめきれんぢゅう)は設立されました。忍耐強い音と踊りの至芸に、「通好み」を目指します。連名由来の「ぞめき」の中に、今宵も小粋に、浮かれ騒いでみませんか。

天狗連

- 1 喜入 恭子
- 2 1965年
- 3 130名
- 4 <http://www.tenguren.jp/>
- 5 <https://www.facebook.com/tenguren/>



天狗連は1965年に結成、徳島の平和連の姉妹連となり現在は130名の連員が所属します。優雅な女踊りと粋な男踊り、心弾む音を奏でる鳴り物衆と元気いっぱい小天狗で成る私たちは、連のモットーである『伝統芸能の継承』と『青少年育成』を心に、これからも日々練習に励んでいきます。

てんしょう 天翔連

- 1 荻野 勇二
- 2 2003年
- 3 110名
- 4 <http://tensyouren.com/2011/>
- 5 <https://www.facebook.com/tensyouren/>



本場徳島『葉月連』の姉妹連として、基本に忠実、且つ上質な阿波おどりを目指しています。女踊りはキレとしなやかさを、男踊りは威勢のよさを表現します。また、少数精鋭で、独特な団扇さばきをする黒法被踊りは一見の価値あり。踊り子を際立たせる鳴り物衆は繊細かつ豪快に静と動を表現します。そして、なんといっても天翔連の一番の見所は連としての一体感。笑顔と感動を届けるべく、私たち自身も仲間と共に阿波おどりを楽しみます。

とうきょうしん 東京新のんき連

- 1 笠井 清司
- 2 2009年
- 3 100名
- 4 <http://tokyoshinnonki.com/>
- 5 <https://www.facebook.com/tokyoshinnonki/>



本場徳島・新のんき連の東京支部として伝統の『のんき調阿波おどり』の流れを汲み、男踊りは豪快で陽気に踊り、女踊りはしなやかさの中にも躍動感に溢れ華やかな阿波おどりです。お囃子も軽快なテンポが特徴で、身体も心も弾む陽気な阿波おどりが楽しめます。阿波おどりを通して日常では味わえない緊張感を求め、上質な阿波おどりを探求し、踊り子の衣装に描かれた花火のような、豪快で華やかな阿波おどりをお届けしています。

とうきょうてんすい 東京天水連

- 1 岩浪 幸宏
- 2 1985年
- 3 40名
- 4 <http://tokyo-tensui.jp>



天水とは、「阿波踊りさえあればよい」といほどの阿波踊り好きのこと。昭和60年、わずか17名で結成したこの東京天水連。女踊りはしなやかかつ凛とした踊りで、男踊りは腰の低さを追及し、威勢良くそして豪快な踊りで祭りを盛り上げます。今ここで踊れるこの時を大切に思い、精一杯踊ります。全身に響き渡るお囃子とキレのある踊りをぜひご堪能下さい。

とうしゅうさい 東洲斎

- 1 小川 香織
- 2 2008年
- 3 80名
- 4 <http://www.nazonoukiyoeshi.com/>
- 5 [facebook.com/nazonoukiyoeshi](https://www.facebook.com/nazonoukiyoeshi)



阿波踊りの歴史と伝統を踏襲しつつ、東洲斎としての個性も大事にしたい。この両面を追究していくことは、本当に楽しいです。もうすぐ連結成10周年。連員も13人から70人になりました。私たちが大切にしているのは、「一体感」。そのために、踊りは鳴り物の音に耳を澄ませ、鳴り物は踊りの足の運びを注意深く見て、お互いの思いを感じ取っています。これからも、腰をおとして一歩ずつ。連の歩みは踊りの一歩と同じです。

のびゆく連

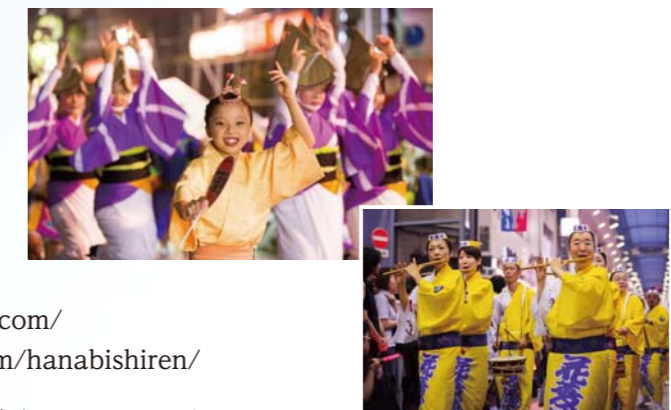
- 1 鈴木 淑夫
- 2 1962年
- 3 90名



のびゆく連は幼稚園から中学生達を中心に高校生大学生お父さんお母さんと家族みんなが協力して活動するアットホームな地元連です。手をあげるのがやっという幼稚園生から、鮮やかに団扇を廻す小・中学生、子供ながらに優雅な色を出す女踊り。お父さんお母さん達で結成する涼げな若草色の浴衣を着た鳴り物は、明るい調子の音色でお祭り気分をさらに盛り上げ、心を躍らせます。子供と共に年々成長する、それがのびゆく連です。

はなびし 花菱連

- 1 塚原 正行
- 2 1966年
- 3 50名
- 4 <http://www.hanabishiren.com/>
- 5 <https://www.facebook.com/hanabishiren/>



花菱連は昭和41年に結成され、今年で51回目を迎えます。伝統を重んじながら新しい事に挑戦している花菱連は、長年各地のお祭りやイベントに参加して盛り上げております。ダイナミックにそして軽やかに動き回る女提灯、一致団結した踊りの男踊りや女踊りに加えて、鉦を中心とした力強い鳴り物が一丸となった、観ている側を飽きさせない演出を是非ご覧ください。

はなみち 花道連

- 1 名和 一成
- 2 1995年
- 3 60名
- 4 <http://hanamichiren.com/>
- 5 <https://www.facebook.com/hanamichiren>



世界を藤色で染め尽くすような、揃いの衣装を身にまとい、高円寺で生まれ育った花道連。心臓の鼓動をイメージさせる花道連唯一独自のお囃子は、耳にすれば心が浮き立ち、エモーショナルなリズムで沸き立つように身体が動き出します。その音に乗って踊るのは、しなやかで色香漂う女踊り、キレのあるまとまりで構成する女ハッピー、渋さと重々しさに挑む男踊り、そして元気いっぱい可愛い溢れる子供踊り。それらが一丸となり、観る人の魂を揺さぶります。

ひさご連

- 1 小川 晴美
- 2 1997年
- 3 35人
- 4 <http://hisago.sub.jp/>
- 5 <https://www.facebook.com/hisagoren/>



ひさごとは、ひょうたんの事を指します。縁起（演技）が良いものと言われ、昔から日本人には馴染みがあり、ひょうきんで愛嬌のあるその形は人を和ませます。私たち、ひさご連はそんな踊りを目指し、『明るく、楽しく、元気よく』をモットーに正調阿波踊りを研究しております。高円寺の連としては、まだまだ新参者ではありますが、世代や背景の違いを超えて、一つになるひさご連の阿波踊りをご覧ください。

ひよっところ連

- 1 喜入 隆
- 2 1964年
- 3 150人
- 4 <http://hyottoko-ren.com/>
- 5 <https://facebook.com/hyottokoren/>



昭和39年に新高円寺ルック商店街を基盤として連を結成し、平成6年に阿波おどりの本場、徳島の阿波おどり振興協会所属「うずき連」と出会い、今では姉妹連として日々精進しております。踊りパートは元気で可愛い子供踊り、粋で華麗な女ハッピー、優雅で統制の取れた女踊り、笑顔で巧みにうちわをさばく男踊りがあります。鳴物はゆったりとしたリズムを基本とし、時には激しく「心を!」「体を!」ふるわせませす。高円寺では歴史の古いひよっところ連。皆様に踊り心と笑顔をお伝えいたします。

べんけい 弁慶連

- 1 根本 雄治
- 2 2007年
- 3 95人
- 4 <http://benkeiren.net/>
- 5 <https://www.facebook.com/benkeiren/>



本場徳島の正調阿波おどりを目指し、伝統を守る大切さ・進化する勇気を持って日々練習を重ねております。阿波おどりの魅力や楽しさを連員一丸となって皆様にご披露出来れば幸いです。弁慶の隈取・弁慶格子をあしらった衣装を身にまとった弁慶連、ご声援よろしくお願い致します。

まいちょう 舞蝶連

- 1 鈴木 一男
- 2 1994年
- 3 66名
- 4 <http://maityou.main.jp>



ダダ打ちと呼ばれる迫力満点の鳴り物、金銀に煌めく団扇を操る団扇踊り、腰を低く落とし勇ましく踊る男踊り、指先から足の角度まで揃えた女踊り、そして、小さくても人一倍気合の入った小蝶。観る人に喜んでいただける様、精一杯演舞いたします!

みどり 美踊連

- 1 齋木 康二郎
- 2 1972年
- 3 60名
- 4 <http://midoriren.com>
- 5 <https://facebook.com/koenjimidoriren/>



高円寺南の緑ヶ丘町会を拠点に1972年に結成されました。正調阿波おどりをベースに、昔ながらの優雅で情緒あふれる音色のお囃子にあわせて、男踊りは硬派で自由奔放に、浴衣踊りは鮮やかな団扇さばき、女踊りは品よく可憐に踊ります。徳島阿波おどりへも参加し、本場阿波の「心」と「音」にあやかり、魅力ある阿波おどりを目指しています。仕事も年齢もさまざまですが「阿波おどり」という絆で、みんなで家族のように楽しく活動しています。

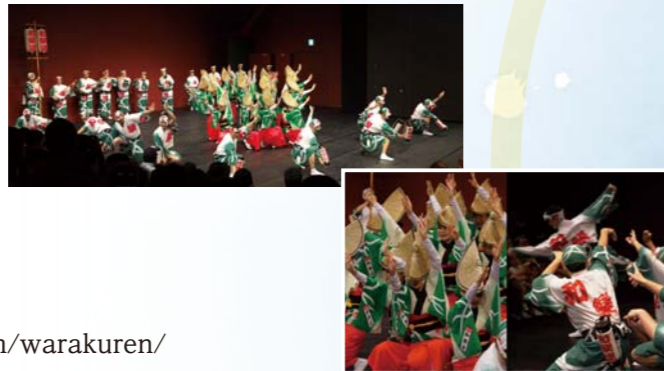
わかこま 若駒連



- ① 高橋 啓
- ② 1974年
- ③ 60名
- ④ <http://www.wakakomaren.com/>

高円寺北口商店街の命を受け、子供踊りを育てる連として発足しました。
昭和53年に大人の連へと成長をしてから、子供踊りと大人踊りが共に活躍のできる連として
今日まで活動しています。若駒の跳ねるが如く生彩な子供踊り、たおやかさと力強さを追求する
大人踊り。伝統様式に敬意を持ち、踊る笑顔なたたえながら若駒連らしい一体感を表現できる
よう日々練習に励んでおります。

わらく 和楽連



- ① 井上 利里子
- ② 1976年
- ③ 77名
- ④ <http://warakuren.com/>
- ⑤ <https://www.facebook.com/warakuren/>

連名の通り「和をもって楽しく踊る」をモットーに、年間を通して活動しています。
家族で所属しているメンバーが多く、アットホームな雰囲気大切に、情緒ある正調阿波踊りを
目指しています。女踊りはしなやかさと軽やかさと笑顔、男踊りは提灯を持ちキレと躍動感を、
子供踊りは元気よく、鳴り物は笛や三味線の旋律を大切に、鉦や締太鼓、太鼓と共に心を
弾ませるよう奏で、これらが一体となって和楽連を精一杯表現していきます。





連携商店街

高円寺阿波おどり 60周年によせて

高円寺パル商店街振興組合 理事長 河原 一

高円寺阿波おどり60周年誠におめでとうございます。

いま私は、60年前の昭和32年8月13日を思い浮かべています。私は4歳でした。高円寺南商盛会（現パル商店街振興組合）に青年部が結成され、20～40代の若者が集まりました。お酒を飲みながらワイワイガヤガヤ、話の中で青年部結成を記念して何かやろう！となったに違いありません。そうして生まれたのが高円寺ばか踊りでした。その2週間後の8月27日、38名の猛者たちが長仙寺さんの庫裡で着替え、顔を白く塗って横の路地から踊り出し商店街を駆け抜けました。私も第6回（昭和37年）から踊って55年、恥ずかしいので観客の中に同級生がいないことを祈りながら踊りました。今年で満60年、1万人の踊り子、100万人の観客、誰が想像できたでしょう。町おこしの原点と自負してもいいんじゃないでしょうか。鬼籍に入られた先輩たちに感謝！



新高円寺通商店街振興組合 理事長 西川 繁雄

阿波踊り60周年記念お喜び申し上げます。

夏の風物詩として根づいたのも各地元の商店街、町会、自治会、地域住民の方々、各官庁、JR、メトロ、関東バス、学校のご協力の賜物と思っています。世界の踊りの中でも芸術を融合した優れた踊りの祭典で鳴り物と踊り手が一對となり愉快で奥深い踊り、今では親子三世代が踊っている家族もみられ、各連のお囃子のリズムや男踊りの豪快でコミカルな踊り、女踊りは上品でしなやかな踊り、息の合った組踊りなど見学者の目を楽しませてくれます。海外との文化交流も公演を通して日本の文化を世界に発信、今後も徳島を師匠として仰ぎ踊る阿呆に未永く愛される踊りで有りたい。



高円寺銀座商店会協同組合 理事長 (NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会 理事長) 久保田 潤一 ▶ P.6



高円寺南商店会 会長 山田 滉

60周年を経て。

南駅前大通り（中央演舞場）は第13回大会にて踊りのメインコースになりました。道路に白線を引いてロープを張って観客との境を作っただけでした。見物客はまばらでしたね。あれから47年、現在の事態になるとは誰が想像したでしょうか？ 私は唯々裏方に徹しながら踊りとお囃子を見てまいりました。最近ではドーム球場での（ふるさと祭り）出演、4月の台湾阿波おどり公演等を通して観てみると、踊り・お囃子の質とかがやきが格段に素晴らしいですね。このことが60周年という歴史ですね。ここからは高円寺（阿波）おどりのジャンルを創造していただければ幸いです。



イトアール通り商店会 会長 内藤 一夫

東京高円寺阿波おどり60周年、誠におめでとう御座います。

先ず始めに、昭和32年発足以来様々な困難を乗り越えて来られたパル商店街の歴代の理事長始め支えて来られた役員の皆様に感謝申し上げます。そして、高円寺の地域の南北の商店街、町会との連携協力拡大で、街と共に大いに発展し、高円寺の地域文化としてしっかりと定着して、更に国内のみならず世界にも発信出来るお祭りとなり、地元の一人としても大変誇らしい想いでおります。私も1972年に「みどり連」に参加させてもらい、未熟な技量ながら阿波おどりの楽しさと感動を経験しましたが、当時と比べ踊りのレベルが格段に向上して参加連の数も観客数も増え、本場徳島を凌ぐ程となりました。又、高円寺阿波おどりの発展は、商店街の賑わいと地域振興に大いに貢献して来ました。今や海外からも認められるブランドになった東京高円寺阿波おどりが、70年80年100年と発展して進んでいくことを願います。



高円寺駅西商店会 会長 香取 孝

高円寺阿波おどり60周年おめでとうございます。

私たち中通商店街が高円寺阿波おどりの連携商店街に加わり、本番の1ヶ月前の夏休みに入った最初の日曜日に、商店街の中でプレ阿波おどりを開催するようになりました。また本番の2日間の1時から4時の間には6から7つの地元連が商店街の中で踊ってくれます。来街客の皆さんはもとより、本番に踊りを観ることができない地元のお年寄りや、小さなお子さんを抱えた親御さん、またはお店の従業員たちも楽しみにしてくれています。数年前に東京高円寺阿波おどり振興協会に理事になってびっくりしたことがあります。それは60年をこえる歴史があって、2日間で100万人の観客を動員する東京を代表する行事にも関わらず、この行事を支えているスタッフの少なすぎる数と役員の高齢化です。東京高円寺阿波おどりの次の10年、20年、30年先を考える時、私の脳裏を一抹の不安がよぎりました。今度は運営もマイナーチェンジを重ねながら、多くの担い手を育成して、100周年を目指して益々の発展に繋がっていきたくと思います。



高円寺中通商栄会 会長 矢部 春雄

阿波おどり60周年、おめでとうございます。

長い歳月の積み重ねの中には、山あり谷ありの物語があったことと存じます。創設から今日まで受け継いで来られた多くの先輩諸氏には深く感謝申し上げます。私たちの商店街は中央線の高架下、駅の西側に位置する飲食店街です。阿波おどりの会場にはなっていないものの本番の2日間には大勢のお客様で街は大いに繁盛します。本番の昼間には幾つかの連が街の中を踊って下さり、これで開店準備に励む店舗従業員をはじめとする街のボルテージは否応なく上がります。そして本番の鳴り物の音が鳴り響くのと同時に、大勢のお客様が詰めかけ、あまりに盛り上がり過ぎ道路も客席とするなど、周囲にご迷惑をお掛けしてしまうことは何とも申し訳ないのですが、各店とも一年で最高の活況を見せます。阿波おどりは商店街の垣根を取り払い、高円寺のまちを一つにしてくれます。連携商店街の一つとして東京高円寺阿波おどりの盛況に向けて一層尽力して参ります。



馬橋商興会 会長 里見 秀和

東京高円寺阿波おどりが創立60周年を迎えられましたこと、

心からお祝い申し上げます。私共、馬橋商興会は青梅街道にある商店街です。高円寺商店連合会に仲間入りして、まだ日が浅いため会員諸先輩から、東京高円寺阿波おどりの歴史を伺うと昭和32年、地域の商店の活性化を図るべき地元の方々がバカ踊りで始まった祭りが紆余曲折しながらも脈々と商店会会員の努力で伝統を受け継ぎ傳承されている事に感銘する次第です。高円寺の8月の夜の風物詩、阿波踊りが地元の人達に感動を与える以上に、地方や海外に行かれている人々にもきつとノクターン（夜想曲）として想い出す事でしょう。これからも東京高円寺阿波おどりが未永く発展していける様、はじっこ商店街も協力してまいります。



トランスボックスアート

電線、電柱の地中化に伴い地上に設置される東京電力の地上機器(トランスボックス)。ところどころにいたずら書きがされ、街の雰囲気汚していたこのトランスボックスをアートで飾り、美観の向上を図るとともに、魅を発信していこうと平成26年度に3基に阿波おどりをモチーフにしたデザイン画のラッピングを実施しました。

この事業に対して地域や来街者から上がった好評の声を受けて、2015年(平成27年)12月から2016年1月にかけて、募集テーマを「東京高円寺阿波おどり」、「高円寺の文化」とする「まちなかアートデザインコンテスト@高円寺」を実施、北海道から大阪に至る148作品の応募があり、30作品が選ばれました。

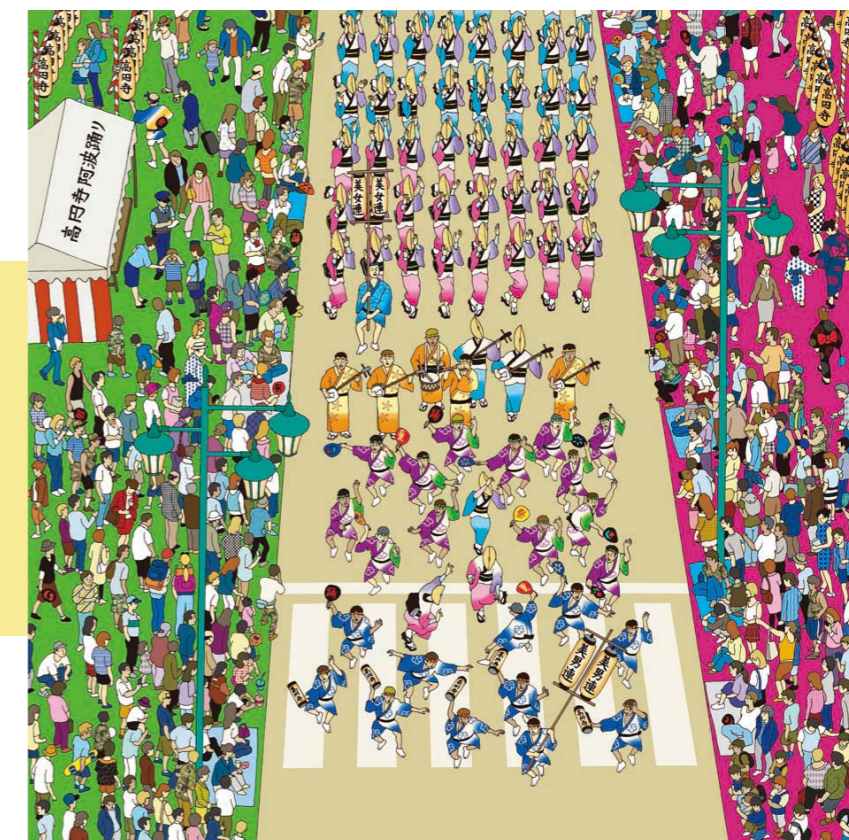
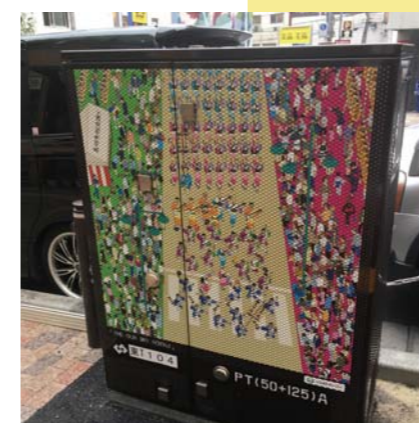
この入選の30点と先行実施の3点、所在掲示の2点を合わせ35基のラッピングされたトランスボックスが、今では街の景色と同化し高円寺の街に彩を添えています。

こうした事業を契機にして高円寺の街が様々なアートで満たされると楽しいでしょうね、ここでは代表作をご紹介します。



「THE OUR 踊り
KOENJI」

金永 治雄さん



「蝉時雨」

荒張 ほのかさん

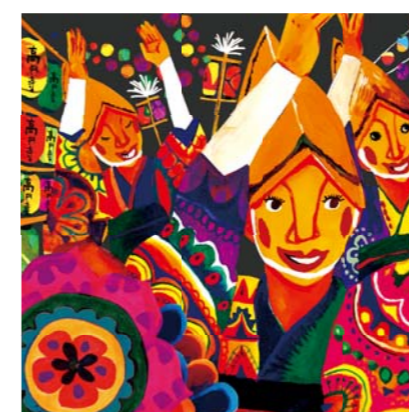


「踊る阿呆」
赤嶺 明美さん

「マイタウン高円寺」
いけの よしこさん



「高円寺に舞う」
石井 理恵子さん



「COLORFUL KOENJI!」
後藤 友香さん



未来へつなぐ

～高円寺阿波おどりがなすべき事～

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、特に岩手、宮城、福島を中心に甚大な被害が発生しました。さらに福島県は原発事故も発生し、杉並区と災害援助協定を結ぶ福島県南相馬市もその被害を受けました。

当時、各地域の祭事は次々と中止、延期を余儀なくされました。高円寺阿波おどりも8月の開催とはいえ、開催するか否か議論となりました。

しかし、まず何よりも被災地に向けて、高円寺阿波おどりとして何ができるか？ 高円寺阿波おどりは3月20日に「東日本大震災義援金募金活動」を行い、さらに5月14日に「がんばろう日本!! 東日本大震災復興支援高円寺阿波おどり」を実施いたしました。



また、夏の開催においては、電力消費に影響の少ない午後3時～6時までという前例のない実施時間として、杉並区をはじめ関係各機関と協議を繰り返した上、近隣商店会や町内会、さらに住民の方々のご協力により、前年に引き続き第55回高円寺阿波おどりを開催する運びとなりました。



高円寺阿波おどりは1995年の阪神淡路大震災支援のチャリティ阿波おどり、さらに2004年の中越地震の際も義援金募金活動を行いました。

そして記憶に新しい2016年4月に発生した、熊本地震の際も5月にチャリティ阿波おどりをを行い、復興支援のお手伝いをさせていただいてまいりました。



今後も高円寺阿波おどりは、チャリティ活動を始めとして、様々な社会貢献を念頭に活動を続けてまいります。

編集後記

60周年記念誌いかがでしたでしょうか。

制作行程はとても大変でしたが、高円寺阿波おどりの歴史等を調べてるうちに、自分も知らなかった事を知る良い機会であったと感じております。

先人の創った高円寺阿波おどりを未来へつないでいけるよう努めたいと思います。

編集

東京高円寺阿波おどり
60周年記念誌制作委員会

